

通級指導 自立活動のポイントは

野洲市の小中学校では、小規模学校の篠原小学校と三上小学校がそれぞれ兼務の担当者となっている以外は、各校に通級指導の担当者がいます。通級指導を望む子ども・保護者の人数は増加傾向です。

通級指導の特徴である「自立活動」の授業づくりでは、子ども一人一人の教育的ニーズを把握することからスタートします。日常生活や学習の中で、子ども自身の強みをどう伸ばすか、弱みをどう克服するかという視点が重要です。強み弱みから指導目標を設定し、6区分 27 項目と関連付けつつ指導内容を考えます。

健康の保持	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 2. 病気の状態の理解と生活管理に関する事 3. 身体各部の状態の理解と養護に関する事 4. 障害の特性の理解と生活環境に関する事 5. 健康状態の維持・改善に関する事 	自立活動の6区分27項目の内容 文部科学省資料より
心理的な安定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情緒の安定に関する事 2. 状況の理解と変化への対応に関する事 3. 障害による学習上又は生活上の困難を克服する意欲に関する事 	
人間関係の形成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者とのかかわりの基礎に関する事 2. 他者の意図や勧請の理解に関する事 3. 自己の理解と行動の調整に関する事 4. 集団への参加の基礎に関する事 	
環境の把握	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保有する感覚の活用に関する事 2. 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 3. 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 4. 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事 5. 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事 	
身体の動き	<ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 2. 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事 3. 日常生活に必要な基本動作に関する事 4. 身体の移動能力に関する事 5. 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事 	
コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎的能力に関する事 2. 言語の需要と表出に関する事 3. 言語の形成と活用に関する事 4. コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 5. 状況に応じたコミュニケーションに関する事 	

通級指導担当者だけでは子どもの強みや弱みを把握できない時は、在籍学級の担任や同学年の教員、特別支援教育コーディネーターと一緒にやり、何が大事かを見つけ、27 項目の内容と関係づけながら考えます。

指導内容を考えるときには、子ども本人や保護者と話し合うことも重要です。大事なのは、苦手なことでもこのような工夫をすればうまくいくというところまで聞き取り、指導に生かしていくことです。

自立活動には、教科書のように決まった教材・教具がありません。担当の先生の得意な方法(ワークシート作成 or ICT 等)を子どものニーズとマッチングさせていくことがよいやり方です。

学期末などには、保護者、子ども本人、在籍学級の担任を交えた上で評価しましょう。個別の指導計画を基に一人一人どこまで達成できたかを面談で確認して、次学期の目標を決めます。子どもも交えて考えるとよいでしょう。本人がなぜ自分が通級による指導を受けるのか納得して受けることが大切です。年度の終わりには、校内委員会でも評価し、通級による指導の継続の有無について責任を持って判断することが大切です。

在籍学級の担任が通級による指導で何をしているかを理解し、その成果を在籍学級で発揮できるような場面をつくるなど、指導目標や内容を互いに共有することが重要です。